

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972700413		
法人名	医療法人 普門院診療所		
事業所名	グループホーム能羅坊		
所在地	栃木県芳賀郡益子町益子25番地		
自己評価作成日	平成28年12月30日	評価結果市町村受理日	平成29年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/09/">http://www.kaigokensaku.jp/09/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	平成29年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、里山や農家散在する自然豊かな場所にあり、母体である医療法人が認知症介護の必要性を感じ、開設したホームである。開設に当たっては、高齢者福祉の先進国スウェーデンから専門家を招いて研修を行ったり、職員をスウェーデンに派遣し、グループホームの運営のノウハウを習得している「他者を自己と平等とみなして個性と尊厳、本人の意思を尊重して本人の立場に立ってサービスを提供すること」を理念に掲げ、職員は明るく、優しい声かけや態度で入居者に接している他、音楽療法も取り入れているなど、入居者の張り合いにもつながっている。また、地域住民を対象に認知症についての講話や運営推進会議の議事録をホームページで公開するなど地域に開かれた施設運営に努めている。また、地域住民と避難訓練を行ったり、運営推進会議に消防署職員参加で話し合う等、災害時の協力体制も構築されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・事業所全体で入居者の思いや意向を把握し、本人本位の生活が送れるように支援をしている。職員は入居者に対して普段から会話やコミュニケーションを多く取るようにし、何気なく発した言葉をしっかりとらえるよう努めている。  
 ・医療法人のため、医療従事者との連携や協力体制は確立されている。重度化や終末期に関しては確固たる実績とチームで支援する体制が整っており、安心した生活を最後まで送れるようになっている。  
 ・地域住民と協力して、火災・土砂災害の対策を行っている。土砂災害訓練では実際に夜間帯に行い、災害時さながらの訓練を行うことで、各参加者の役割や必要物品の確保などの再確認をする機会にもなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者の個性を大切にし、本人の意思を尊重して本人の立場に立ってサービスを提供する」の理念のもと、申し送りやミーティングなどで意見交換し、より良いサービスが提供できるよう努力している。	年に2回管理者が理念に沿って、認知症の方のケアや個性の大切さを話している。全職員には自分だったらこうされたくないなど自分に置き換えて、ケアに当たるように指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の新年会に参加させていただき、交流を図っている。土砂災害避難訓練には、多くの地域の方が参加して下さり、協力してもらっている。	地域の飲食店に入居者と外出し、何気ない会話のやり取りをすることで、自然と顔なじみの関係を作っている。また、地域の新年会に参加し、交流を楽しんだり、法人の夏祭りに地域住民を招き、一緒に嬉しさや思い出を共有している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が医療機関であることを活かし、医師が認知症や健康についての講話を町のホールやホーム等で行い、地域の貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族代表の方から率直な意見や要望・疑問点などをいただき、それらに応えることによりサービスの向上につながる事が出来ている。また、当施設での生活の様子をより良く知っていただくことが出来ている。	家族や地域代表、行政の担当者が参加して忌憚のない意見を貰うようにしている。会議を通してこれまでに、土砂災害の訓練に地域住民が参加することになったこと、行政担当者のアドバイスで看取りの加算を取得することができたなどの実績がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、現場の状況や問題点など報告している。	町の依頼により認定審査会に参加し、地域の情勢や現状を互いに把握するよう取り組んでいる。また、町の職員が講師となり、事業所内で介護保険の仕組みなどを説明する研修会を開き、相互に理解を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者が不穏などの場合は、職員2人で介助にあたっている。玄関は、開くと音楽が鳴るようにしており、鳴ればすぐに玄関に行くようにしている。	定期的に勉強会を開き、拘束しないケアについて職員全体で日頃の支援の振り返りをしている。外に出かけたい訴えのある方には職員が付き添い、自由に行動ができるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が勉強会に参加し理解している。当施設では虐待はありません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員個々に勉強し知識はあるが、研修内容に組み入れ理解と活用ができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には見学していただき、契約時には、利用者や御家族に十分に説明をし、疑問点や不安に思っていることに対し理解と納得を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事等で来訪された時に要望・意見をお聞きし、今後のサービス向上に活かしている。入居者にはその都度聞いている。	入居者の気持ちは普段の会話の中で聞き取り、外出や日常生活の支援に取り組んでいる。家族からは面会時や行事に参加した際に、運営に関する意見を伺っている。食べ物の持ち込み等について、家族と話し合って基準を決めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	問題が生じた場合には、その都度話し合い解決するようにしている。毎月1回ミーティングを開き、問題点や意見・提案を聞き即座に対応できるようにしている。	月1回の職員の会議が行われている。また、普段から職員同士でケアについての意見交換をして、入居者にとって良いケアになるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力・実績・勤務態度を把握し、給与等に反映させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同一法人の介護老人保健施設と共に研修の年間計画を立て、職員の勉強会を毎月行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	見学は受け入れているが、他ホームとの交流・ネットワーク作りには取り組んでいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学時には、可能であれば本人にも来ていただいている。入居時には良く話を聞き、安心して生活していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症の発症時期・症状等を詳しく聞き、不安を受け止められるよう努力している。要望など出来る限り聞き入れられるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状況を詳しく聞き、どのようにしたら最善の生活が送れるか見極められるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事やレクリエーション以外は自室で過ごされている方もいるが、時々訪室しコミュニケーションをとるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、最近の様子などを報告するようにしている。また、具合が悪く病院に受診した時にも電話にて報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話でのやりとりを支援している。	家族の協力も得ながら、お盆の時期の墓参りや馴染みの美容室に通うようにして、馴染みの場所の関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活を楽しめるよう常に目を配り、孤立してしまっている時には職員が間に入り利用者同士話しができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の継続的な関係を望まれる家族や利用者は今までいなかったが、希望があれば断ち切らない付き合いをしていきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望は必ず聞くようにし、できるだけ希望通りに生活ができるよう努力している。	入居者の趣味や特徴を生かし、可能な限り意向に沿った支援を行っている。たばこを吸いたいという希望があった入居者には外にテラスを作り、吸える環境を整えたり、勉強がしたいという方には計算や漢字のドリルを用意するなど、思いや希望を叶えられるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時又は面会時に家族の方から生活歴や職歴、趣味などを聞き取りしている。本人に聞ける場合は本人から聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや介護記録などで現状を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い、アイデアを出し合ってより良い介護計画になるよう努力している。必要に応じて家族の方にも参加していただいている。	介護計画は介護支援専門員が主で作成するが、現場職員の意見や記録を参考にし、本人や家族の意向を含めたものを作成している。時には、カンファレンスに管理者の医師も参加して、医療的な視点でのアドバイスがある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録等に記入することにより、情報の共有が図れている。介護計画の見直しにも記録を見ることにより活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ある利用者に既存のサービス外のニーズがあったが、本人と家族と話し合い、合意のもとそのサービスを行うことができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れを行っている。運営推進会議にもいろいろな方面の方が参加してくれ、助言をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営母体が診療所のため、密に連絡を取り合い対応している。診療科目以外の時には家族に連絡を取り、他病院にて治療を受けている。	法人での医療体制が整っており、日ごろから医療連携については電話での相談や医師が現場に駆け付けるなど、安心した医療が受けられる。また、歯科や皮膚科など昔から通っている病院を継続して通院できるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付いた事などすぐ報告し指示をもらう事ができているので、安心して対応する事ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人の診療所に入院となるので、洗濯物を取りに行きながら看護職員に様子を聞いたりし、情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族の方には、管理者(医師)から話しをしてもらい、早い段階から方針を決めている。終末期の支援についての勉強会も行っており、実際に看取りも行っている。	定期的に法人内で看取り関連の勉強会や講習会を開き、医療に関する知識や理解を事業所全体で深めている。また、看取り時の対応や方針などを全職員が統一できるように指導や助言を管理者が行っている。また、早い段階から本人・家族には看取りの意思の確認や説明をし、心身ともに支えとなる支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加し勉強している。実際に事故が発生した場合には、落ち着いて対応するように心がけている。連絡方法も見やすい所に貼ってある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災は年2回(昼・夜間想定)、土砂災害は年1回(その年により異なる)実施している。土砂災害は、地域の方にも協力を得て毎年実施している。それ以外にも自主訓練を行っている。	火災・土砂災害の避難訓練には消防署をはじめ10名前後の地域住民の参加を得て訓練している。救護班や誘導班など役割を決めて防災活動に備えている。夜間帯での避難訓練を実施後、玄関前の階段に蛍光塗料を塗って目印をつけたり、スロープを用意したりと速やかな避難が出来る様になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉遣いに注意しながら接している。「同意し否定せず」を忘れずに対応している。	全職員には「です・ます」調で入居者と会話するように統一している。馴れ合いの言葉遣いにはならないように注意し、入居者の地元の表現や話し方で接し、また人格等を損なわないよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や行動の中で、本人の想いを感じとれるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、なるべく本人の希望通りに生活できるよう援助している。だが、希望通りにいかない場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容はホームのできるため、本人の希望を取り入れて定期的にかかっている。季節や目的に合わせ、本人なりのおしゃれができるよう支援している。また、希望によりホーム外の理容・美容室も利用できる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、食事の準備を一緒に行う事は困難であるが、食器拭き・テーブル拭き・食後のそうじなど一緒に手伝ってもらっている。言葉かけをしながら、食事を楽しんでもらえるよう支援している。	朝食は手作りであり栄養バランス、彩りに心掛け、味や見た目を楽しめるよう配慮されている。昼食と夕食は業者をお願いしているが、法人の畑で育てた野菜を1品添えるなど、少しでも旬のものを添える様にしている。また、入居者とともにサツマイモ堀をして試食をしたりと食のイベントを企画することを多く取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分不足に注意し、食事やおやつ時には言葉かけを多くし水分摂取を促している。また、栄養が偏らないようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	言葉かけを行い、一人ひとりに合った口腔ケアを実施している。歯科医の往診もあり、必要時には利用している。本人の希望で、かかりつけの歯科医に行くこともできる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ使用者でも、尿・便意の訴えがある時にはトイレ誘導し、排泄できるよう援助している。	一人ひとりの排泄時間を記入し、データでその人の排泄パターンを把握するようにしている。可能な限り日夜ともにトイレに行けるよう、職員が支援している。入居してから紙おむつから紙パンツに改善した例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品など摂取してもらったり、体操に参加してもらい体を動かしている。それでも排便のない時には、内服薬や坐薬にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調を見ながら週2・3回職員が1対1で入浴を支援している。浴槽は西洋風で高さがあるが、補助具等使用し、安全に配慮している。各居室にもシャワーがついており、いつでもシャワー浴ができるようになっている。	一人ひとりのペースに合わせ、時間や曜日などを工夫して対応にあたっている。西洋風のバスタブを使用し、雰囲気や入浴の楽しさを演出している。重度の方でも福祉用具を設置することで、職員2人の支援で安心・安全に入浴ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の主張を尊重し、言葉かけを行い居室誘導している。不安を取り除き、安心して休めるよう話しを傾聴したり、言葉かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を出してもらい、薬の目的など分かるようにしている。変化については医師に報告し指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの習慣や楽しみごとを把握し、その行いが出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は常に行っている。ドライブにも行き、季節の景色を楽しめることができています。希望により、買い物や外食などにも出掛けている。家族の方にも安心して外出していただけるよう言葉かけをしている。	日常的な散歩は、徒歩が難しい人でも車いすを使うことで外出している。日用品の購入や店でラーメンを食べる企画では、事前に店に飲食のスペースを確認し、外出支援をしている。	家族などに外出支援に取り組んでいることを知らせ、可能な限り外出支援が協力できるように働きかけることを期待します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば家族の合意のもと、管理し使用することが出来る。領収書などは御家族に渡し、確認してもらうようにしている。現在預かり金はありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	原則、電話は希望があれば自由に利用することができる。ただし、その方の状況により電話の利用を控えていただく場合もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた物や花を飾ったりし、目でも楽しめるようにしている。	スウェーデン建築を取り入れ、木のぬくもりや温かさを感じられるつくりとなっている。事業所全体が空気循環装置により、冬でも室内はとても暖かい。またその設備により、不快な臭いを防ぎ、快適に過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席とソファ席があり、自由に座ることができる。仲良く談話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室が広くとられており、本人の使い慣れた家具など持ち込み、安心して過ごせるよう配慮されている。各居室にシャワーもついており、いつでもシャワー浴ができるようになっている。	居室は基準値よりも大きな作りとなっており、家具やソファなど自由に持ち込むことが出来る。室内トイレにシャワーがついており、必要なときに各自で使用することができる。洗面台も昇降タイプのため、入居者に合わせた高さで整容が可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせ、出来ることなどを手伝ってもらっている。不安にならないよう言葉かけを多くしている。		